

参 考 : 宇高航路存続のための取組状況

- 【 H22.02.12 】 宇高国道フェリー(株)と四国フェリー(株)が、航路廃止届を四国運輸局に提出
 - ◆ H22.03.26 の最終便で廃止
 - ◆ 景気低迷に加え、瀬戸大橋をはじめとする高速道路料金の引き下げが影響
- 【 H22.02.16 】 玉野市長、岡山県知事に航路存続の要望書を提出
- 【 H22.02.17 】 玉野市長・高松市長、国交相に航路存続の支援要請
 - ◆ 生活の足や流通面で地元大きな影響が及ぶ。
 - ◇ フェリー会社から直接話を聞いた上で、対策を検討する。
- 【 H22.02.18 】 玉野市、「宇高航路対策会議」を設置、初会合
 - ◆ 市への影響や今後の対応などを協議、存続の可能性を探る。
 - ◆ 市としては当面、存続に向け努力していく。
- 【 H22.02.18 】 岡山県知事・香川県知事、国交相に支援要請
 - ◆ 国の政策が要因なので間違いない。国の責任で具体的な支援を考えてほしい。
 - ◇ 近く地元自治体とフェリー運航会社2社との連絡協議会を設け、支援策を検討していく。
- 【 H22.02.22 】 岡山県議会、航路存続に向けた支援を求める国への意見書を全会一致で可決。議長が同日上京、首相や国交相らに手渡す
 - ◆ 宇野－高松航路の存続並びに住民の日常生活に欠かせない交通手段の確保に向けた支援策を早急に講じるよう強く要望する。
- 【 H22.02.25 】 玉野市議会、「生活航路として航路の存続に必要な施策を国において早急に講ずるよう強く要望する」との意見書を全会一致で可決
 - ◆ 航路がすべて廃止されれば、通勤、通学、通院など日常的に利用している市民に及ぼす影響は甚大。
- 【 H22.02.26 】 四国運輸局、「第1回宇野高松間地域交通連絡協議会」を開催
 - 《 構 成 》
 - 座 長 : 四国運輸局 次長
 - 委 員 : 岡山県 生活環境部長、香川県 政策部長、玉野市 産業振興部長、高松市 市民政策部長、中国地方整備局 企画部長 港湾空港部長、中国運輸局 交通環境部長、四国地方整備局 企画部長 港湾空港部長、四国運輸局 企画観光部長 交通環境部長 海事振興部長
 - 《 国側から対応策(たたき台)提示 》
 - ◇ 緊急的な措置
 - ① 当面の宇高航路維持の可能性を検討する
 - ② 宇野、高松両港とその間に位置する直島の宮浦港を結ぶ航路を活用する
 - ③ 陸上の代替輸送を検討する
 - ◇ 中長期的な措置
 - 船舶を公的機関が保有し、運行事業は民間で実施する公設民営化
 - ◆ 高松市長、宇高航路の存続を願っており、そういう思いからすると、若干期待外れな提案であったかなというふうに思っている。

【 H22.03.01 】 岡山県、「県宇高航路連絡調整会議」を開催

◆ 瀬戸大橋では運べない大型貨物の物流に及ぶ影響をまとめる。

【 H22.03.04 】 高松市議会、「宇高航路の存続を求める意見書」を全会一致で可決

◆ 「航路が廃止されれば、物流面への影響のみならず、市民の日常生活にも重大な影響を及ぼすことは明白」と指摘。

◆ 「大規模災害時の緊急物資の海上ルートや、瀬戸大橋不通の場合の移動手段の損失などが強く懸念される」と訴え。

【 H22.03.04 】 宇高国道フェリー㈱、航路廃止の届出を取り下げ

【 H22.03.06 】 四国運輸局、「第2回宇野高松間地域交通連絡協議会」を開催

◆ 航路の持続可能な運行形態などを探るため、社会実験を行う必要があるとの認識で一致

◆ 社会実験の実施主体や財源面で、国と自治体で意見が相違

▽ 国 : 国 50%、地方 50%を提案

▼ 地方 : 国 100%を提案

【 H22.03.11 】 四国フェリー㈱、航路廃止の届出を取り下げ (H23.3 まで継続表明)

◆ 岡山県知事、どんなスケジュールでどういった料金水準にするか全く分からない。自治体は生活者の足を確保する一番大事な責任を負っている。政策の方向性をはっきり打ち出してほしい。

◆ 玉野市長、今後とも、宇野高松間地域交通連絡協議会で、瀬戸大橋と共存できるような抜本的解決に向けて国との協議を続けたい。

【 H22.03.中 】 四国運輸局、「第3回宇野高松間地域交通連絡協議会」を開催予定